

# 美園トーク スタジオ

'25-26  
season

《意見交換成果とりまとめ》

## まちづくり意見交換会「美園トークスタジオ'24-25season」実施概要

- 日 時： 2026年2月14日(土) 10:00~12:00
- 開催方法： アーバンデザインセンターみその(UDCMi)
- 主 催： 美園タウンマネジメント協会、みその都市デザイン協議会
- 企画運営： (一社)美園タウンマネジメント



	問題点・懸念点等	解決アイデア等
<p><b>参加の入口 きっかけ</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●活動自体を知らない。</li> <li>●情報が散在し、自主的に調べないと情報にたどり着けない。 ※既にある程度発信蓄積されていないと、検索にかからない。</li> <li>●誰がやっているか分からない不安。 ※SNS投稿等から「人となり」・「雰囲気」が見えないと、参加を躊躇する。 ※若い世代ほど事前情報(SNS・写真等の日常発信)を重視する傾向。</li> <li>●従来に比べて、PTA等の“半強制”的な関係構築の場が弱くなった。 →親同士の横のつながりが弱い。 →自然発生的な接点が不足し、孤立化が進んでいる。</li> <li>●常連層や高齢層が多いと、新規に参加しづらい。 ※高齢層の主導する雰囲気や、「上から目線」・「昔ながらの空気感」があると、若い世代は敬遠。</li> <li>●初参加者への配慮が見えないと、継続しようと思わない。</li> <li>●地価・テナント賃料が高い事も影響し、個人レベルでの小規模企画・イベント等が立上げにくい。</li> <li>●空きテナント等も無く、活動拠点が不足している。 →既存の子育てイベントでも、結果としてイオンモール浦和美園に場所依存する形になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●UDCMi施設(をえること)の認知度が低い? →もっとUDCMiワークショップスペースを活用できるのでは?</li> </ul>
<p><b>参加の選択肢</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●時間があわない／他にやりたいことがある／興味がない。</li> <li>●平日は都内勤務で、地域にいない。</li> <li>●子ども(児童・生徒・学生)も、土日は学校行事・部活動等で埋まっている。</li> <li>●子どもを留守番させてまで参加はできない。家庭がまず優先。 →子どもも一緒に楽しめないと、参加しづらい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「親の学び」と「子どもの体験」の両立が必要。</li> <li>●学生は授業・カリキュラムに組み込めば(仕組み化すれば)参加できる。</li> <li>●異分野混合で新しい関わり方を創出してみては??</li> </ul>
<p><b>役割や責任</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分に何ができるか想像しづらい。</li> <li>●参加した場合に期待される役割が「重そう」に感じてしまう。</li> <li>●次の担い手に移行する仕組みがない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「できることだけ」・「短時間」などの明示がほしい。</li> </ul>
<p><b>続ける動機 納得感</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(特に若い世代は)参加価値・意義が見えないと続かない。</li> <li>●その場の「楽しかった」で終わりがち。</li> <li>●参加しても何が変わったか分かりづらい。</li> <li>●参加した後の接点が残らない。 ※主催者側の自己完結になりがち。</li> </ul>	

	問題点・懸念点等	解決アイデア等
参加の入口 きっかけ	<p>少 多</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 居住形態(持家/賃貸)によって、住民スタンス・意識の違いがある。</li> <li>● 戸建/集合住宅や集合住宅規模によって、自治会の活動区域への意識の違い。 ※活動区域の内/外の捉え方</li> <li>● 自治会によっては、従来の活動を継続できず、(コロナ禍も契機になりつつ)活動内容を縮小・限定する傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活動自体をそもそも知らない。</li> <li>● 活動の存在は認知していても参加しない理由： ※活動内容が分からないから。 ※「どんな人が参加しているのか」が分からないから。 ※その活動が「何につながっているのか」が分からないから。</li> </ul>
参加の選択肢	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 仕事と子育てで時間が無い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 周知の仕方の工夫： [例] Web動画(TikTok等)の活用 [例] 口コミの核となる中心人物を探す</li> <li>● Web検索される手前の、最初の認知をどう獲得するか： [例] 浦和美園駅でのポスター掲示 [例] イオンモール浦和美園でのポスター掲示</li> <li>● 興味・関心をひくために、川沿い清掃等では防災観点からのアプローチも加える。 ※いざという時のために、まち・川を知る機会。</li> </ul>
役割や責任	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公共スペースは行政機関が全て管理するものだ、と思っている。</li> <li>● 公園/歩道/遊歩道/民間施設等において、地域の清掃・除草活動でどこまで何をしてOK/NGか不明瞭。 [例] 植樹帯は地域で除草OK?? 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活動日時(平日/休日など)</li> <li>● 何か地域で活動したい人が、情報を得られる相談窓口をつくる。</li> <li>● (公園)簡易看板で周知する。 [例] 地域で草刈りしてOKな範囲等</li> </ul>
続ける動機 納得感	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ボランティアの意義が分からない。(無償奉仕・労働はしたくない)</li> <li>● (各施設等の)利用者として、参加メリットが分からない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域内に小/中/高/大学の各校が立地する事を活かし、声かけに協力してもらおう。(PTAなど)</li> <li>● 子育て世代が多い事もあり、子どもの活動を契機にしていく。 [例] 登校班単位での集まりを活用</li> <li>● 自治会・PTA等既存地域組織とは別レイヤーの枠組みとして、よりライトな「地域活動クラブ」をつくる。 →活動紹介サイトをつくり、地域活動実施を条件に活動情報を掲載。</li> <li>● 今は参加が難しくても、参加できる状況になったら参加し易いよう、枠組み等を今から整えておく。</li> <li>● 公園利用者が呼びかけ合い実施。(親子で芋掘り感覚で参加するイメージ)</li> <li>● 活動参加に対する謝礼等： [例] 飲み物：(企業の宣伝を活用) [例] ポイント付与 →さいたま市みんなのアプリ活用</li> <li>● 企業等の事業活動にもメリットがある形(販促等)で参画してもらおう。 →単独企業ではなく、参画の「輪」を拡げていく事が大事。</li> </ul>